

---

# 運命の歯車は音をたてながら回り続ける

花浅葱羽羅

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

運命の歯車は音をたてながら回り続ける

### 【コード】

N0995L

### 【作者名】

花浅葱羽羅

### 【あらすじ】

光はただ遊びたかった。しかし、闇は知っていた。知っていてしまっていた。

(前書き)

何時までも其れが正しい向きで居るとは限らない。

ギーッ ゴトゴト

(その出会いは)

「初めまして!! ボク達は光!!」  
「私達は闇。」

幸せなのか?

(不幸の始まり)

「何して遊ぶ?」  
「じゃあ、かくれんぼしよう!」

光は出会う

(闇はさ迷う)

「みつけた!!」  
「あーあ、あとは闇だけだね!」

その時は

(その場は)

「見つからないね・・・」  
「うん・・・」

光の時間へ

(闇の空間へ)

「あっタぐれになっちゃうー!」  
「急ごうー!」

もしもう一度

(もう二度と)

「闇ーっ」  
「何処にいるのー!」

会おうのなら

(会えないのなら)

「光から逃げなきゃ!」  
「あの人がいる!」

光の双子は

(闇の双子は)

「闇ー!」  
(ごめんね。光。)

守れぬだろう

(守れるだろう)

「ごめん光。でも、逃げなきゃ」  
「闇ー!」

闇の双子を

(光の双子を)

「あっあの人は!!」

「おねがい。あの人に会いたくないの! あの

神様から!!」

光と闇は反対でなければならぬ。

神様は2つが嫌いだから。

光と闇は仲良くなつてはいけぬ。

神様が決めた。

この決まりを守れない場合。

神様が両方を殺す。

光は闇を守るといふ

(しかし神様には勝てない)

闇は光を守るために逃げた

(それは正しい判断)

神様はとても恐ろしい人

(だって神様は)

(残酷な運命だから)

(光ごめんね私達は光から逃げるよ。)(闇、ボク達を守るから。)

(後書き)

磁石のNとNだって向き合いたいのだ。

結局其れは絶対にしてはならないことなのだ。だって世界の理が崩れてしまう。

神様は大多数を優先し、数少ないものを切り捨てる。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n0995/>

---

運命の歯車は音をたてながら回り続ける

2010年10月11日07時42分発行